



マルチキャストのシミュレーション

Cisco Crosswork Planning は送信元特定マルチキャスト (SSM) をサポートしています。これは、受信者によって要求される指定された送信元アドレスからのみ、マルチキャストパケットを受信者に配信する方法です。送信元を制限することで、SSMは、リソース要件を軽減し、セキュリティを向上させます。

ここでは、次の内容について説明します。

- SSM パラメータの表現 , on page 1
- 検出されたマルチキャストフローとシミュレーションされたマルチキャストフロー, on page 1
- global multicast simulation パラメータの設定, on page 2
- マルチキャストデマンド, on page 4
- マルチキャストフロー, on page 5

SSM パラメータの表現

SSM は、マルチキャストフローごとに (S,G) パラメータによって指定されます。 (S,G) ペアは、IP アドレスと同様のドット区切り 10 進表記を使用してラベル付けされます (1.1.1.1、2.2.2.2など)。各 (S,G) ペアはマルチキャストフローの名前であり、各フローは[マルチキャストフロー (Multicast flows)] テーブルに一覧表示されます。

検出されたマルチキャストフローとシミュレーションされたマルチキャストフロー

Cisco Crosswork Planning 内のマルチキャストフローの操作方法は、マルチキャストフローが Cisco Crosswork Planning によって検出されたかどうか、またはそれをシミュレートするかどうかによって異なります (Table 1: 検出されたマルチキャストフローとシミュレーションされたマルチキャストフロー , on page 2)。

global multicast simulation パラメータの設定

Table 1: 検出されたマルチキャストフローとシミュレーションされたマルチキャストフロー

	検出されたマルチキャストフロー	シミュレーションされたマルチキャストフロー
作成	Cisco Crosswork Planning はマルチキャストフロー ((S,G) ペア) を検出し、マルチキャストトラフィックは[マルチキャストフロー トラフィック (Multicast Flow Traffic)] テーブルから取得されます。	最初に、送信元 (S) と接続先 (G) の両方を定義して、マルチキャストフローを手動で作成します。次に、送信元をこれらのマルチキャスト接続先にリンクするデマンドを作成し、ネットワークを介してルーティングをシミュレートできるようにします。
ホップ	検出される各マルチキャストフローには、マルチキャストフロー ホップが含まれます。これは、マルチキャストパスが通過するノードとインターフェイスの組み合わせです。	デマンドを作成すると、使用するパスが決定されます。
外部ホップ	Cisco Crosswork Planning は、プランファイルの外部にあるインターフェイスでマルチキャストフロー ホップを検出します。これらは、プランノードから外部ノードへのインターフェイス、または外部ノードからプランノードへのインターフェイスです。	デマンドを作成すると、使用するパスが決定されますが、マルチキャスト外部フロー ホップは識別されません。
宛先	Cisco Crosswork Planning は、各フローのマルチキャスト接続先のリストを識別しません。	マルチキャストフローを作成するときに、接続先 (ノード、インターフェイス、外部AS、または外部エンドポイント) を指定します。マルチキャストデマンドを作成する場合は、これらをマルチキャスト接続先として指定します。
該当するテーブル	<ul style="list-style-type: none"> [マルチキャストフロー (Multicast Flows)] [マルチキャストフロー ホップ (Multicast Flow Hops)] [マルチキャストフローの外部ホップ (Multicast Flow External Hops)] 	<ul style="list-style-type: none"> [マルチキャストフロー (Multicast Flows)] [マルチキャストフローの接続先 (Multicast Flow Destinations)] デマンド

global multicast simulation パラメータの設定

フロー ホップ

プランファイルにマルチキャスト情報が含まれている場合は、マルチキャストフローで使用される現在のホップが含まれます。可能であれば Cisco Crosswork Planning のマルチキャストシミュレーションでこれらのフロー ホップに従うように指定できます。これは、たとえば、現在のネットワーク状態での増分ルーティング変更 (障害によって発生するものなど) を計算する

場合に役立ちます。プランニングのために、現在の状態が関係ない場合は、この動作を変更してマルチキャストフロー ホップを無視することができます。

Cisco Crosswork Planning は、マルチキャストシミュレーションでそのネットワークの状態を使用します。マルチキャストフロー ホップを考慮するようにシミュレーションを設定するには、次の手順を実行します。

Procedure

- ステップ1 プランファイルを開きます（[プランファイルを開く](#)を参照）。[ネットワーク設計（Network Design）]ページに表示されます。
- ステップ2 ツールバーで、をクリックするか、[アクション（Actions）]、[編集（Edit）]、[ネットワークオプション（Network options）]の順に選択します。
- ステップ3 [Simulation] タブをクリックします。
- ステップ4 シミュレーションでマルチキャストフロー ホップを使用または無視するには、[マルチキャストフロー ホップを使用（Use multicast flow hops）]をオンまたはオフにして、[保存（Save）]をクリックします。

シスコのネクストホップ[®]

手動で挿入されたデマンドの場合、(S,G) ペア（マルチキャストフロー）のすべてのSSM デマンド ラフィックは、そのデマンドが通過する任意のインターフェイスを通過します。

ただし、マルチキャストフロー (S,G) の S および G のハッシュを使用して計算されるシスコのネクストホップを使用するように Cisco Crosswork Planning を設定できます。このハッシュ計算は、IOS と IOS XR で異なります。デフォルトの動作は、IOS のものです。IOS XR ハッシュは、OS フィールドが IOS XR で始まるすべてのノードで使用されます。

シスコのネクスト ホップを使用するように Cisco Crosswork Planning を設定するには、次の手順を実行します。

Procedure

- ステップ1 プランファイルを開きます（[プランファイルを開く](#)を参照）。[ネットワーク設計（Network Design）]ページに表示されます。
- ステップ2 ツールバーで、をクリックするか、[アクション（Actions）]、>[編集（Edit）]、>[ネットワークオプション（Network options）]の順に選択します。
- ステップ3 [ネットワーク（Network）] オプションが開きます。
- ステップ4 [プロトコル（Protocols）] タブをクリックします。
- ステップ5 [マルチキャスト（Multicast）] セクションの [マルチパス（Multipath）] 選択 ドロップダウン リストから、[CiscoNextHop] を選択します。

ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。

マルチキャスト デマンド

検出されたマルチキャストフローについては、デマンドを手動で挿入できます。詳細については、[マルチキャストフローのデマンドの作成](#), on page 6 を参照してください。

シミュレートされたマルチキャストフローの場合は、デマンドを手動で作成します。一般的なデマンドの詳細については、[デマンドを使用した送信元から接続先へのトラフィックフローのシミュレーション](#)を参照してください。

シミュレーションされたマルチキャストデマンド

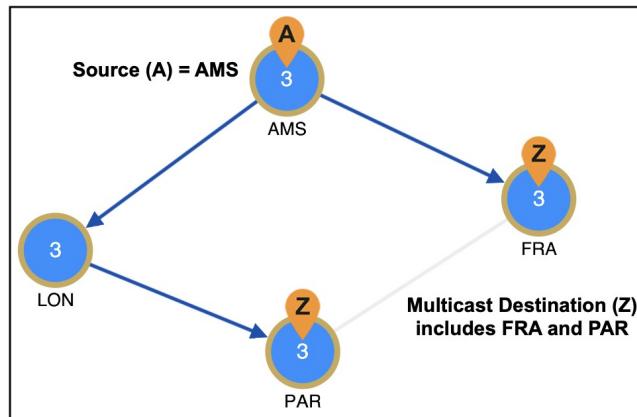
手動で挿入されたデマンドの場合、(S,G) ペア (マルチキャストフロー) のすべてのSSMデマンドトラフィックは、そのデマンドが通過する任意のインターフェイスを通過します。SSMデマンドは、ユニキャストデマンドのように送信元から接続先へではなく、接続先から送信元への最短パスでルーティングされます。デフォルトでは、マルチキャストマルチパスは無効です。送信元に戻るルート上のノードから等コストの2つのパスが出る場合、パスは次の基準に基づいて選択されます。

- 最も大きいIPアドレスを持つリモートインターフェイスが使用されます。
- IPアドレスが使用できない場合は、辞書的に最小の名前を持つルータ名が使用されます。

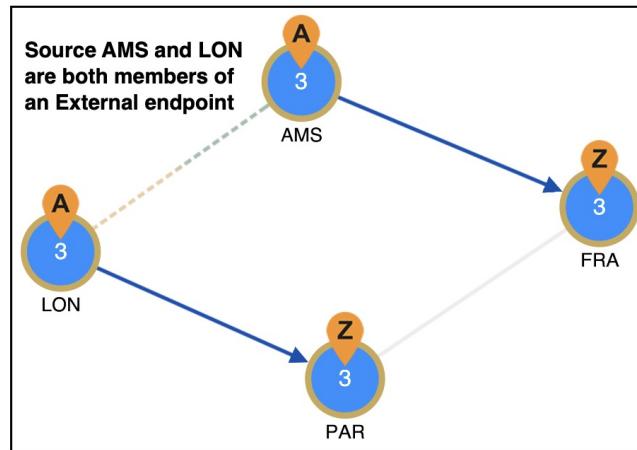
ただし、シスコのネクストホップマルチキャスト、マルチパス選択方式を使用するようにCisco Crosswork Planningを設定できます。詳細については、[シスコのネクストホップ](#), on page 3を参照してください。

これらのマルチキャストデマンドの送信元になるのは、ノード、インターフェイス、外部AS、または外部エンドポイントです。インターフェイスを使用すると、デマンドトラフィックが入る正確なインターフェイスを指定できます。外部エンドポイントを使用すると、マルチキャスト送信元がプラン内のノードの外部にあり、プラン内のインターフェイスへのトラフィックフローおよびそれらのインターフェイスを通過するトラフィックフローの可能なエントリポイントが複数存在する状況をモデル化できます。

この例では、選択されたデマンドには、AMSのノード送信元と、2つのノード (FRAとPAR) を含むマルチキャスト接続先があります。送信元ノード (S) はAでマークされ、受信者グループ (G) の接続先はZでマークされます。



外部エンドポイントを使用して、計画外のソースをモデル化できます。この例では、デマンドのソースは、メンバーとして AMS と LON を含む外部エンドポイントです。マルチキャストの宛先には FRA と PAR の両方が含まれます。



マルチキャストフロー

マルチキャストフローの表示



Note マルチキャストフローの詳細情報がプランファイルにすでに存在する場合のみ、UI でそれらの詳細情報を表示できます。UI からマルチキャストフローを作成、編集、または削除することはできません。

検出されたマルチキャストフローおよびマルチキャストフロー ホップをプロットで強調表示するには、それらをそれぞれのテーブルから選択します。マルチキャストデマンドの送信元と接続先を表示するには、そのテーブルからデマンドを選択します。プロットでは、送信元は A で識別され、接続先は Z で識別されます。

マルチキャストフローのデマンドの作成

表示対象	このテーブルを表示
送信元名と受信者名の両方を含む、マルチキャストフロー	[マルチキャストフロー (Multicast Flows)]
(S,G)名、ホップノード、ホップインターフェイスを含む、検出されたマルチキャストフロー ホップ	[マルチキャストフロー ホップ (Multicast Flow Hops)]
(S,G)名、アウトバウンドインターフェイスの方向を含む、検出されたマルチキャストフローの外部ホップ (プランの外部と推測される接続先)	[マルチキャストフローの外部ホップ (Multicast Flow External Hops)]
(S,G)名、接続先ノードを含む、ユーザーが作成したマルチキャストフローの接続先	[マルチキャストフローの接続先 (Multicast Flow Destinations)]
マルチキャストデマンド	デマンド

マルチキャストフローのデマンドの作成

マルチキャストフローのデマンドを作成するには、次の手順を実行します。

Procedure

ステップ1 マルチキャストの詳細情報を含むプランファイルを開きます ([プランファイルを開く](#)を参照)。プランファイルが [ネットワーク設計 (Network Design)] ページに表示されます。

ステップ2 ツールバーから、[アクション (Actions)] > [挿入 (Insert)] > [デマンド (Demands)] > [デマンド (Demand)] の順に選択します。

または

右側にある [ネットワークサマリー (Network Summary)] パネルの [デマンド (Demands)] テーブルで、
+ > [デマンド (Demands)] の順にクリックします。

ステップ3 [名前 (Name)] フィールドに、デマンドの名前を入力します。

ステップ4 [送信元 (Source)] エリアで、マルチキャストフローの送信元 (S) を定義します。

- [タイプ (Type)] リストから、送信元をノード、インターフェイス、外部 AS、または外部エンドポイントとして選択します。
- ノード送信元の場合は、サイトとノードの両方を選択します。

インターフェイス送信元の場合は、サイト、ノード、およびインターフェイスを選択します。

外部 AS の場合は、外部 AS と、この外部トラフィックが通過するプランファイル内のノードの両方を選択します。

外部エンドポイントの場合は、その名前を選択します。

ステップ5 [接続先 (Destination)] エリアで、マルチキャストフローの受信者グループ (G) を定義します。

- a) [タイプ (Type)] リストから、[マルチキャスト接続先 (Multicast destination)] を選択します。
- b) [(G) 受信者 ((G) Receiver)] リストから、シミュレートされたマルチキャストフロー (S,G) を識別する受信者を選択します。

ステップ6 (オプション) 必要に応じて他のすべてのフィールドに入力し、[追加 (Add)] をクリックします。

■ マルチキャストフローのデマンドの作成

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。